

日米欧における自動運転の消費者ニーズ調査を実施（2017年）

－日米欧において自動運転システムの購入もしくは購入検討は40%を上回る－

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて日米欧における自動運転の消費者ニーズ調査を実施した。

1. 調査期間:2017年9月～10月
2. 調査対象:日本、米国、欧州の自動車免許を保有して1年以上経過し、週2回以上運転する20歳以上の男女2,000名(日本500名、米国500名、欧州;ドイツ400名、イギリス300名、フランス300名)
3. 調査方法:インターネットアンケート調査

<日米欧における自動運転の消費者ニーズ調査とは>

本調査では世界の自動車メーカーで研究・開発が加速している自動運転について、日米欧(ドイツ/フランス/イギリス)別にアンケート調査を実施して各地域別のニーズの違いを分析した。ここでは、自動運転に対する期待と購入意欲、自動運転を活用したい運転用途(想定される利用シーン)、自動運転中にクルマで何をしたいか、高速道路走行を前提とした自動運転システムにどの程度の費用を負担するかについて取り上げる。なお一部の設問については2014年に実施したアンケート結果を踏まえ、自動車ユーザー(ドライバー)ニーズの変化について比較分析している。

【調査結果サマリー】

◆ 日米欧の4割以上の自動車ユーザーが自動運転に対する高い期待

自動運転に対する期待と購入意欲について(単数回答)、日米欧(ドイツ/イギリス/フランス)ともに、期待しており購入したい、もしくは購入を検討したいと回答した割合の合計はいずれの地域も40%を超える。なかでも欧州が最も高く、「大いに期待しており購入したい」が19.0%、「期待しており購入を検討している」が34.3%と合計で53.3%であった。

◆ 自動運転を最も活用したいのは日本は旅行・レジャー・帰省、米国は日常生活(買い物)

自動運転を活用したい運転用途(想定される利用シーン)について(複数回答)、日本は旅行・レジャー・帰省が40%、米国では日常生活(買い物)で43.2%、欧州では体調不良・疲労・寝不足時で38.6%が最も高い回答比率であった。

◆ 自動運転中にクルマでしたい事は日本は仮眠、米欧では同乗者との打合せや会話が5割

自動運転中に車室内で何をしたいかについて(複数回答)、日本は仮眠の47.0%が最も高い。米欧は同乗者との会話や打合せが最も高く、米国は49.8%、欧州は57.9%であった。

◆ 高速道路走行を前提とした自動運転システムについて

2014年比で米欧では10万円以上を支払うと回答した比率が上昇傾向

高速道路走行を前提とした自動運転システムにどの程度の費用をするかについて(単数回答)、2014年の調査結果と比較したところ、日本では大きな変化は見られなかったが、米欧では10万円以上を支払うと回答する比率が上昇している。高速道路の自動運転システムが現実味を帯びるなか、米欧ではある程度の費用を負担しても利用したいとする自動車ユーザーが増えていることが示唆される。

◆ 資料体裁

資料名：「2017 日米欧における自動運転の消費者ニーズ調査」
 発刊日：2017年12月6日
 体裁：A4判 203頁
 定価：180,000円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地:東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長:水越 孝

設立:1958年3月 年間レポート発刊:約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>)

(株)矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL:03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

プレスリリース

【調査結果の概要】

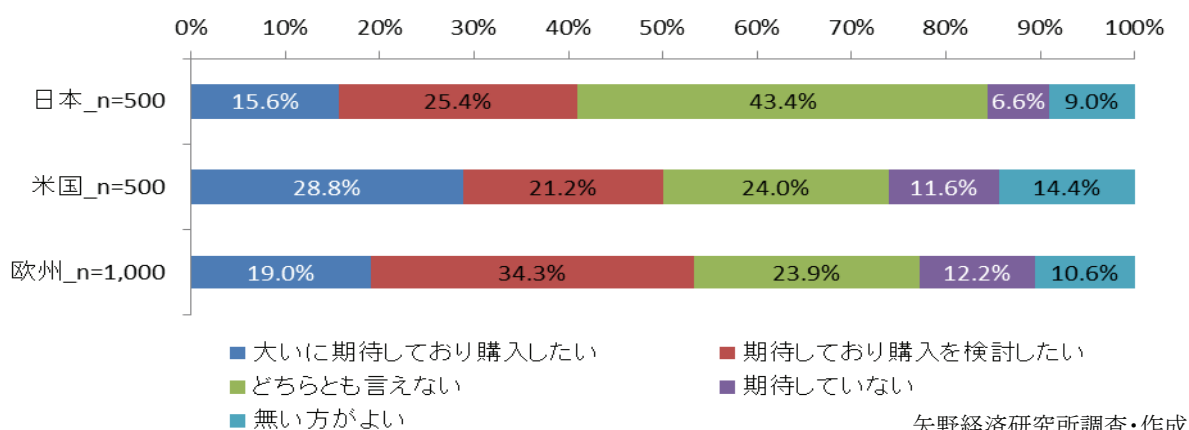
1. 自動運転に対する期待と購入意欲

自動運転に対する期待と購入意欲について(単数回答)、日米欧(ドイツ/イギリス/フランス)ともに、期待しており購入したい、もしくは購入を検討したいと回答した割合の合計はいずれの地域も40%を超える。米国では50.0%(「大いに期待しており購入したい(28.8%)」と「期待しており購入を検討したい(21.2%)」の合計)、欧州(ドイツ/イギリス/フランス)は53.3%(「同(19.0%)」と「同(34.3%)」の合計)、日本は41.0%(「同(15.6%)」と「同(25.4%)」の合計)であり、欧州が3地域の中で購入意欲・検討が最も高い結果となった。

一方で、否定的な意見も存在し、米国では「期待していない」「無い方がよい」の合計で26.0%、欧州では同22.8%と2割を超える自動車ユーザー層が存在する。

日本については米欧と比較して「どちらとも言えない」との回答比率が43.4%と高い。この背景には米欧と比較して、自動車の運転頻度や走行距離との違いがあるものと考えられる。本調査結果から、米欧ではほぼ毎日運転する自動車ユーザーが約5割存在し、月間走行距離も100km~500km未満が3割強存在するのに対し、日本は一週間に1日以下が約4割を占め、また月間走行距離も100km未満の自動車ユーザーが約6割を占める。米欧の自動車ユーザーと比較すると、自動車を運転する頻度も高くなく、月間走行距離も短いことから、自動運転に対してそれほどどの需要を感じていない自動車ユーザーが多いことが示唆される。

図1 自動運転に対する期待と購入意欲



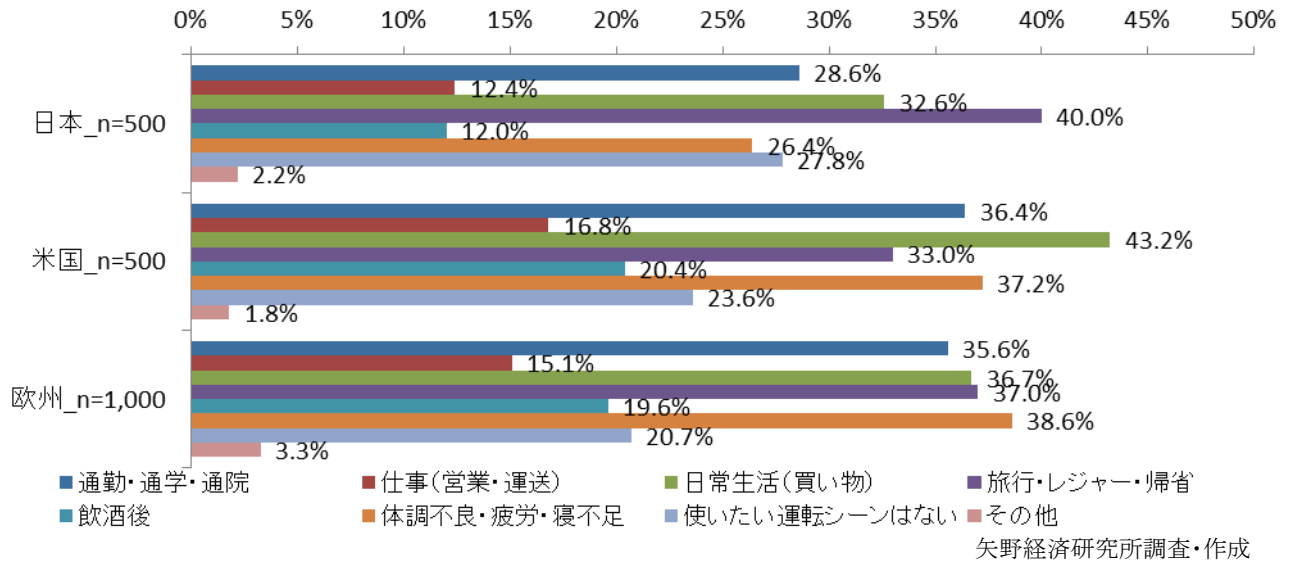
注1. 調査時期;2017年9月~10月、調査対象;日本、米国、欧州(ドイツ/イギリス/フランス)の自動車免許を保有して1年以上経過し、週2回以上運転する20歳以上の男女2,000名(日本500名、米国500名、欧州;ドイツ400名、イギリス300名、フランス300名)、調査方法;インターネットアンケート調査、単数回答

2. 自動運転を活用したい運転用途(想定される利用シーン)

自動運転を活用したい運転用途(想定される利用シーン)について(複数回答)、日本は「旅行・レジャー・帰省」が40%と最も高かった。米欧でも30%を超えており、欧州では40%に近い。米国で最も高かったのが「日常生活(買い物)」であり43.2%を占める。「日常生活(買い物)」は日本や欧州でも回答比率が高く、両地域の割合は30%を超えている。欧州では「体調不良・疲労・寝不足」時で38.6%と最も高いが、「旅行・レジャー・帰省(37.0%)」「日常生活(買い物)(36.7%)」と上位3項目にそれほど差異はないものとする。

本設問は日常における運転用途や運転頻度(米国除く)、月間走行距離との相関関係があることから、日常生活において自動運転を活用することで、運転負荷を軽減するといったことへの期待もあるものと考えられる。日本において「旅行・レジャー・帰省」が米欧と比較して最も高い比率であることも、こうしたことが窺える。

図2 自動運転を活用したい運転用途(想定される利用シーン)



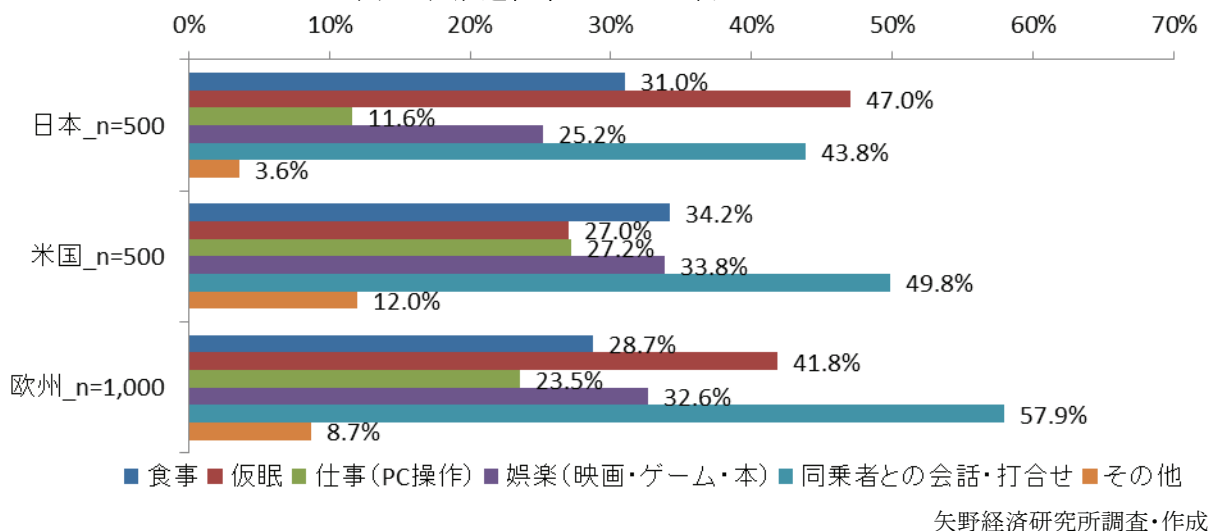
注2. 調査時期;2017年9月~10月、調査対象;日本、米国、欧州(ドイツ/イギリス/フランス)の自動車免許を保有して1年以上経過し、週2回以上運転する20歳以上の男女2,000名(日本500名、米国500名、欧州;ドイツ400名、イギリス300名、フランス300名)、調査方法;インターネットアンケート調査、複数回答

3. 自動運転中にクルマで何をしたいか

自動運転中にクルマでやりたいことについて(複数回答)、日本と米国・欧州で特性がみられる。日本は「仮眠」が47.0%を占め最も多く、次いで「同乗者との会話や打合せ」が43.8%、「食事」が31.0%である。米国と欧州では「同乗者との会話や打合せ」が最も高く、それぞれ49.8%と57.9%を占める。「仮眠」については、欧州では41.8%で2番目に回答が多いが、米国では27.0%と最も低く、「仕事(PCの操作)」27.2%とほぼ同等である。

本調査においては自動運転中にクルマでやりたいことについて、日常の運転頻度や月間走行距離との相関関係はそれほどみられないことから、自動運転が現実となった際の車中における自由時間(運転しなくてよい時間)をどう有効活用するのかについて、各国の生活習慣や環境などの各国事情を反映したドライバーの希望や嗜好が示唆される結果となった。

図3 自動運転中にクルマで何をしたいか



注3. 調査時期;2017年9月~10月、調査対象;日本、米国、欧州(ドイツ/イギリス/フランス)の自動車免許を保有して1年以上経過し、週2回以上運転する20歳以上の男女2,000名(日本500名、米国500名、欧州;ドイツ400名、イギリス300名、フランス300名)、調査方法;インターネットアンケート調査、複数回答

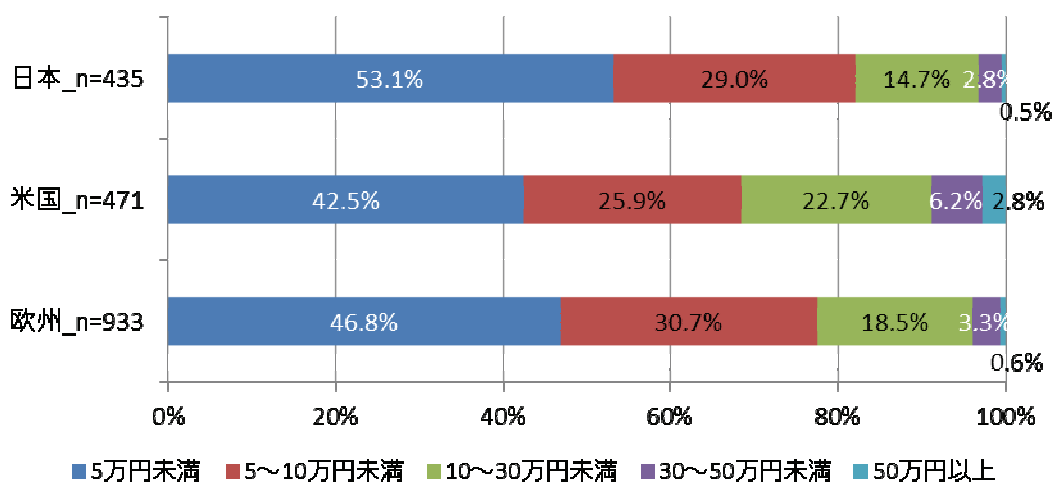
4. 高速道路走行を前提とした自動運転システムにどの程度の費用を負担するか

自動運転システムの開発は現在、主に高速道路、市街地、駐車場を想定して進められている。こうしたなか、高速道路走行を前提とした自動運転システムにどの程度の費用であれば負担するか(単数回答)について、2014年の調査結果と比較した。

日本では大きな変化は見られなかったが、米国と欧州で高速道路の自動運転システムに対する費用負担金額は上昇している。「5万円未満」の割合が減少しており、特に欧州では10ポイント程度落ちている。一方で10万円以上の割合が上昇しており、「50万円以上」については米国で2.8%から8.3%、欧州は0.6%から3.7%に割合が上昇している。自動運転システムが現実味を帯びるなか、米欧については、ある程度の費用を負担しても、自動運転機能を高速道路上で利用したいとする自動車ユーザーが増えていることが示唆される。

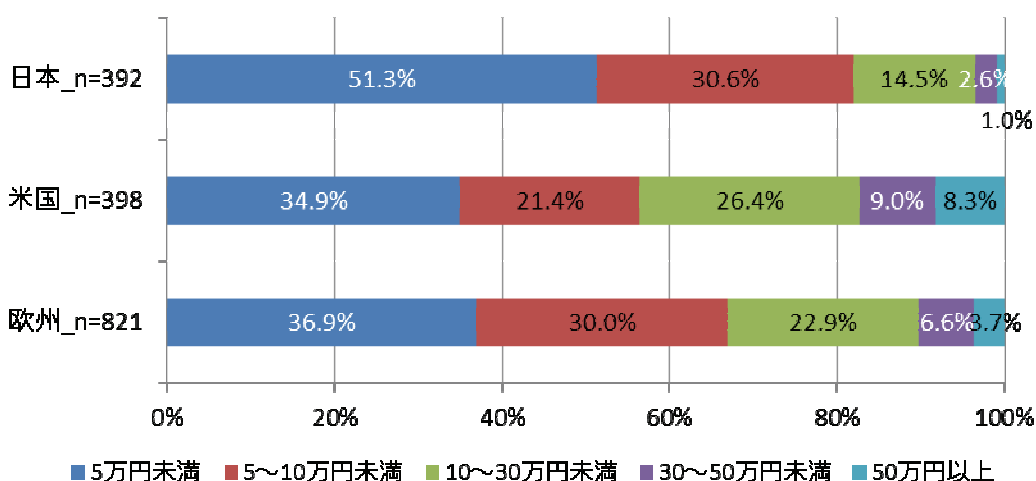
図4 高速道路走行を前提とした自動運転システムへの費用負担(2014年と2017年調査結果比較)

図4-1 2014年調査



矢野経済研究所調査・作成

図4-2 2017年調査



矢野経済研究所調査・作成

注4. 2014年の調査時期;2014年7月、調査対象;日本、米国、欧州(ドイツ/イギリス/フランス)の自動車免許を保有して1年以上経過し、世帯で自動車を保有する20歳以上の男女2,198名(日本526名、米国560名、欧州;ドイツ452名、イギリス337名、フランス323名)のうち回答した1,839名(日本435名、米国471名、欧州;ドイツ/イギリス/フランス933名)、調査方法;インターネットアンケート調査、単数回答

注5. 2017年の調査時期;2017年9月~10月、調査対象;日本、米国、欧州(ドイツ/イギリス/フランス)の自動車免許を保有して1年以上経過し、週2回以上運転する20歳以上の男女2,000名(日本500名、米国500名、欧州;ドイツ400名、イギリス300名、フランス300名)のうち回答した1,611名(日本392名、米国398名、欧州;ドイツ/イギリス/フランス821名)、調査方法;インターネットアンケート調査、単数回答